

治験ってなに？ ～より良い「くすり」の誕生のために～

新しい「くすり」が生まれるまで



基礎研究
まず、製薬会社の研究者や医師が「病気の原因」について研究し、「くすりのもと」になりそうな物質を探します。

非臨床研究
様々な実験で選び出された「くすりのもと」が、まず動物に対してどんな作用があるかを確認する試験を行います。

治験とは？

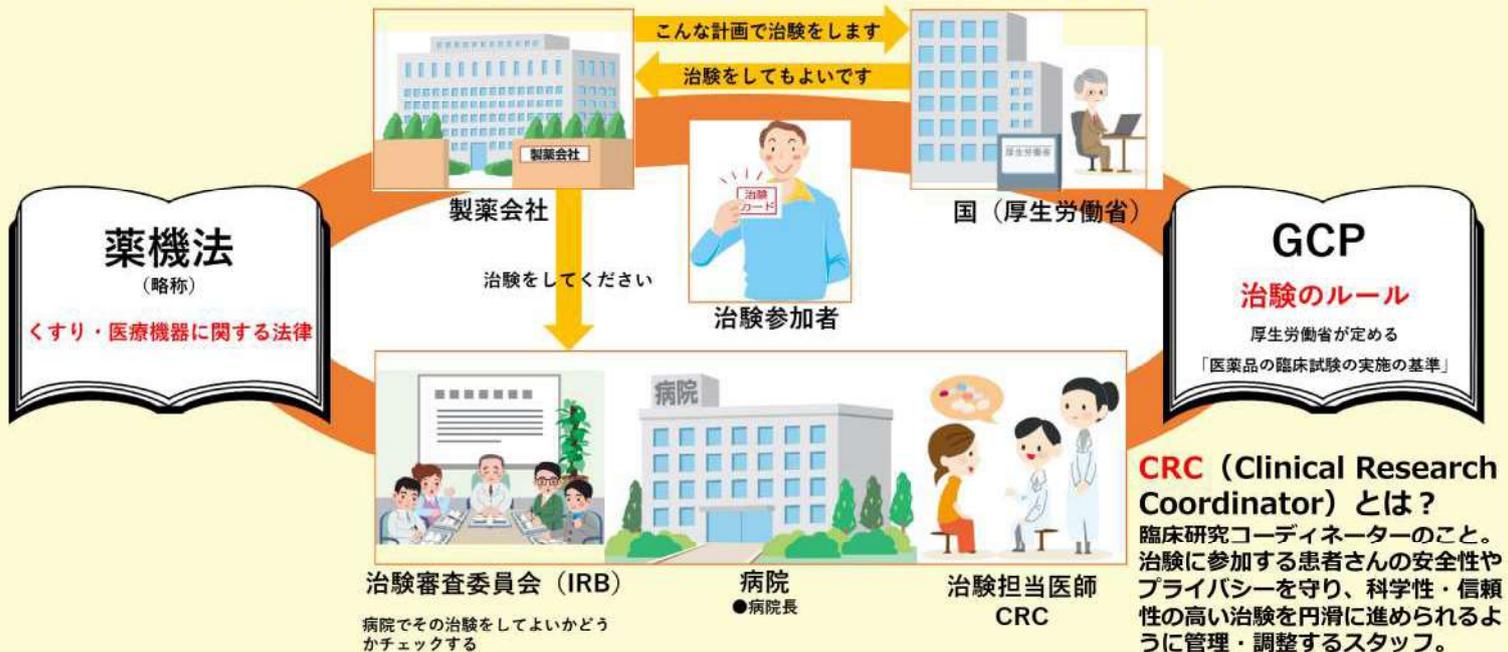
くすりの候補を国からくすり (= 医薬品) として認めてもらうために必要な情報の収集を目的として行う臨床試験 (人を対象とした試験)。国が定めたルールのもとで行います。

治験のデータは国に提出され、くすりとして役立つかどうか審査を受け、最終的にくすりとして国に認められます。

くすりが病院で使われるようになって、実際の患者さんに使われた場合の効果や安全性、副作用などを調べ、くすりを育てます。

治験に関わる主な人たちと2つのルール

安心して参加できるように、治験は国がさだめた厳しいルールで行われます。



たくさんの研究、治験に参加される方の協力を経て、長い年月をかけて、ようやく「くすり」として使うことができます。

群大病院では、新薬開発に力を入れ常時80~100件の治験を実施し、これまでに約300もの新薬が承認されています。より良い「くすり」の誕生のために、臨床試験部では質が高く安全・安心な治験の実施をサポートしています。